

報道関係 各位

2019年6月14日
株式会社日本レースプロモーション

6月22日(土)～23日(日)
2019年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 第3戦 スポーツランド SUGO
開催概要

株式会社日本レースプロモーション(代表取締役社長 倉下 明、所在地:東京都千代田区)は、6月22日(土)～23日(日)の2日間、宮城県 スポーツランドSUGO インターナショナルレーシングコース(1周: 3.704 km)において、2019年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 第3戦 SUGO を開催いたします。

悪天候に翻弄された前戦オートポリス大会は、ソフトタイヤスタートの関口 雄飛(イトウチュウエネクス チーム インパル)が、終盤までステイアウトを選んだ戦略とアグレッシブな走りによって、予選16位から見事優勝を果たした劇的な大会となりました。

今大会は、ノックアウト方式による公式予選と、決勝レース 68周((251.88km))で争われます。なお、今大会の公式予選は、Q1を2つのグループ(A組とB組)に分けて実施します。各組10分間の走行を行い、各組の上位6台がその次のセッション(Q2)へ進出します。各組みのグループ分けの方法は抽選としますが、参加車両が複数のエントリーは、それぞれ別の組とします。(※詳細に関しては、P2公式予選を参照。)このQ1組分けは、コース上の台数を減らし、各車が安全かつ十分なアタックタイミングを確保することで、公正さとエキサイティングさの両立を目指したものです。

新型車両「SF19」での初レースとなるスポーツランド SUGO。各チームはデータ量の少ない中で車をどう仕上げるのか。コース幅が狭くオーバーテイクしにくいこのコースで、ミディアムタイヤに対し約 2 秒のアドバンテージが予想されるソフトタイヤや新オーバーテイクシステムの使い方にも関心が集まります。

そのアグレッシブな走りで連続優勝が期待される関口、開幕から2連続2位獲得でディフェンディングチャンピオンの強さを示し、今季初優勝を狙う山本 尚貴(ドコモ・チーム・ダンディライアン・レーシング)に注目が集まる一方、未だノーポイントの小林 可夢偉(カロツェリア チーム ケーシーエムジー)、中嶋 一貴(バンテリチン チーム トムス)、石浦 宏明(ジェームス ピーエムユーセルモインギング)ら実力者達にも大きな期待がかかります。そして、前戦4位の牧野 任祐(ティーシーエス・ナカジマレーシング)、前戦6位のアレックス・パロウ(ティーシーエス・ナカジマレーシング)、開幕5位の坪井 翔(ジェームス ピーエムユーセルモインギング)、開幕7位のルーカス・アウアー(ビーマックス・レーシング ウィズ モトパーク)らルーキー達にもご注目ください。



今季初優勝を飾った、関口 雄飛 (イトウチュウエネクス チーム インパル)

公式予選

Q1(各組10分間) 公式予選Q1を2つのグループ(A組とB組)に分け、各組10分間の走行とする。
各組の上位6台が(Q2)へ進出する。
実施に当たっては、大会特別規則書第17条3の運用に準じる。

・予選Q1の運用について

- 1)公式予選Q1を2つのグループ(A組とB組)に分けて実施する。
- 2)グループ分けの方法は抽選とする。
- 3)参加車両が複数のエントリーは、それぞれ別の組とする。
- 4)公式予選Q1は各組10分間の走行とする。
- 5)各組の上位6台がその次のセッション(Q2)へ進出する。
- 6)公式予選通過基準タイムは、Q1各組において達成された同組1位タイムの107%以内とする。
- 7)Q2に進出できなかった車両には、Q1で最も速いタイムを記録した組のQ1順位7番に総合予選順位13番が与えられ、別の組のQ1順位7番に総合予選順位14番が与えられる。以降交互に総合予選順位が決定される。

Q2(7分間) 上位8台がQ3に進出。9～12位の順位が確定。

Q3(7分間) 1～8位の順位が確定。

・セッションの間のインターバルは各10分。

・ノックアウト方式の名称は、予選にて好タイムが出なければその場でノックアウト(脱落)されることから、この呼称となりました。

※Q1=ミディアムタイヤのみ使用可能。

※Q2、Q3=ソフトタイヤ、ミディアムタイヤの使用が可能。

決勝レース

1周:3.704km(右回り)×68周=251.88km

最大レース時間:1時間30分

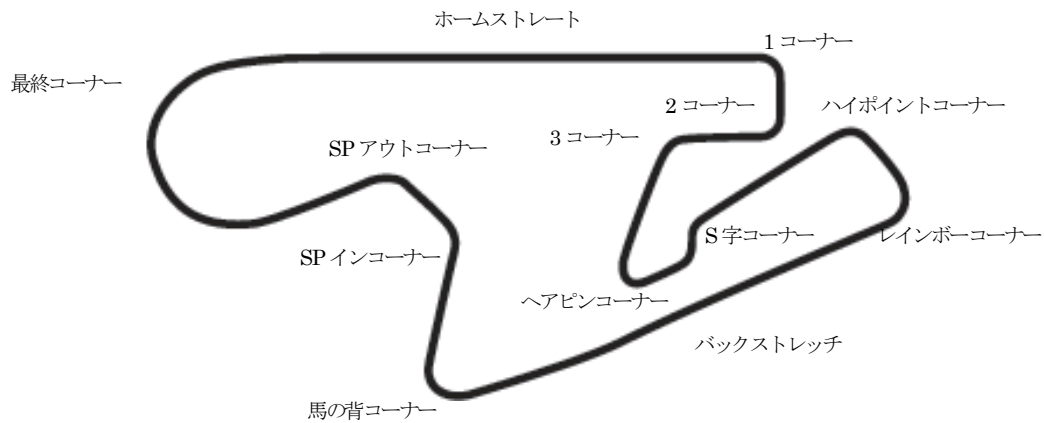
中断時間を含む最大総レース時間:3時間20分

※決勝レースでは、ソフトタイヤ、ミディアムタイヤ、2種類の使用が義務付けられています。

スポーツランドSUGOについて

第3戦が行われるスポーツランド SUGO は、約 70m の高低差に、中高速のコーナーがレイアウトされたサーキットです。コース前半のテクニカルなセクションを抜けると、ハイポイントコーナー付近を頂上に、バックストレッチは急激な下り坂。最終コーナーからホームストレートにかけて10%の上り勾配を駆け上ります。全長もさほど長くないので、ドライバーにとっては息つく間もないハードなコースです。それ故に、アクシデントが発生しやすく、「SUGO には魔物が棲む」とも言われています。

スポーツランド SUGO インターナショナルレーシングコース



2019年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 第3戦 エントリーリスト

Car No.	ドライバー名	生年月日	出身地	チーム名 (読み)	監督	エンジン
1	山本 尚貴 Naoki Yamamoto	1988/ 7/11	日本/栃木県	DOCOMO TEAM DANDELION RACING (ドコモ・チーム・ダンディライアン・レーシング)	村岡 潔	HONDA/M-TEC HR-417E
5	福住 仁嶺 Nirei Fukuzumi	1997/ 1/24	日本/徳島県			
3	山下 健太 Kenta Yamashita	1995/ 8/ 3	日本/千葉県	KONDO RACING (コンドーレーシング)	近藤 真彦	TOYOTA/TRD Biz-01F
4	国本 雄資 Yuji Kunimoto	1990/ 9/12	日本/神奈川県			
7	アーテム・マルケロフ Artem Markelov	1994/ 9/10	ロシア	UOMO SUNOCO TEAM LEMANS (ウオモ スノコ チーム ルマン)	片岡 龍也	TOYOTA/TRD Biz-01F
8	大嶋 和也 Kazuya Oshima	1987/ 4/30	日本/群馬県			
15	ダニエル・ティクトゥム Daniel Ticktum	1999/ 6/ 8	イギリス	TEAM MUGEN (チーム・ムゲン)	中野 信治	HONDA/M-TEC HR-417E
16	野尻 智紀 Tomoki Nojiri	1989/ 9/15	日本/茨城県			
17	塚越 広大 Koudai Tsukakoshi	1986/ 11/20	日本/栃木県	REAL RACING (リアルレーシング)	金石 勝智	HONDA/M-TEC HR-417E
18	小林 可夢偉 Kamui Kobayashi	1986/ 9/13	日本/兵庫県	carrozeria Team KCMG (カロツヅエリア チーム ケーシーエムジー)	松田 次生	TOYOTA/TRD Biz-01F
19	関口 雄飛 Yuhi Sekiguchi	1987/12/29	日本/東京都	ITOCHU ENEX TEAM IMPUL (イトウチュウエネクス チーム インバル)	星野 一義	TOYOTA/TRD Biz-01F
20	平川 亮 Ryo Hirakawa	1994/ 3/ 7	日本/広島県			
36	中嶋 一貴 Kazuki Nakajima	1985/ 1/11	日本/愛知県	VANTELIN TEAM TOM'S (バンテリン チーム トムス)	舘 信秀	TOYOTA/TRD Biz-01F
37	ニック・キャシディ Nick Cassidy	1994/ 8/19	ニュージーランド			
38	石浦 宏明 Hiroaki Ishiura	1981/ 4/23	日本/東京都	JMS P.MU/CERUMO・INGING (ジェームス ピーエムユーセルモインギング)	立川 祐路	TOYOTA/TRD Biz-01F
39	坪井 翔 Sho Tsuboi	1995/ 5/21	日本/埼玉県			
50	ルーカス・アウアー Lucas Auer	1994/ 9/11	オーストリア	B-Max Racing with motopark (ビーマックス・レーシング ウィズ モトパーク)	本山 哲	HONDA/M-TEC HR-417E
51	ハリソン・ニューウェイ Harrison Newey	1998/ 7/25	イギリス			
64	アレックス・パロウ Alex Palou	1997/ 4/ 1	スペイン	TCS NAKAJIMA RACING (ティーシーエス・ナカジマレーシング)	中嶋 悟	HONDA/M-TEC HR-417E
65	牧野 任祐 Tadasuke Makino	1997/ 6/28	日本/大阪府			

本田技研工業/M-TEC製エンジン使用チーム:5チーム9台
トヨタ自動車/TRD製エンジン使用チーム:6チーム11台

2019年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 ポイントランキング

ドライバーポイントランキング

順位	No.	ドライバー	トータル ポイント	2019/4/20-21	2019/5/18-19	2019/6/22-23	2019/7/13-14	2019/8/17-18	2019/9/28-29	2019/10/26-27
				SUZUKA Rd.1	AUTOPOLIS Rd.2	SUGO Rd.3	FUJI Rd.4	MOTEGI Rd.5	OKAYAMA Rd.6	SUZUKA Rd.7
1	1	山本 尚貴 Naoki Yamamoto	16	8	8					
2	37	ニック・キャシディ Nick Cassidy	11	10	1					
3	19	関口 雄飛 Yuhi Sekiguchi	10	0	10					
4	3	山下 健太 Kenta Yamashita	8	6	2					
5	8	大嶋 和也 Kazuya Oshima	6	0	6					
6	65	牧野 任祐 Tadasuke Makino	6	1	5					
7	16	野尻 智紀 Tomoki Najiri	5	5	0					
8	5	福住 仁頼 Nirei Fukuzumi	4	0	4					
9	39	坪井 翔 Sho Tsuboi	4	4	0					
10	4	国本 雄資 Yuji Kunimoto	4	3	1					
11	64	アレックス・パロウ Alex Palou	3	0	3					
12	50	ルーカス・アウアー Lucas Auer	2	2	0					
13	15	ダニエル・ティクトゥム Daniel Ticktum	1	1	0					
	7	アーテム・マルケロフ Artem Markelov	0	0	0					
	17	塚越 広大 Koudai Tsukakoshi	0	0	0					
	17	トリスタン・シャルパンティエ Tristan Charpentier	0	0	0					
	18	小林 可夢偉 Kamui Kobayashi	0	0	0					
	20	平川 亮 Ryo Hirakawa	0	0	0					
	36	中嶋 一貴 Kazuki Nakajima	0	0	0					
	38	石浦 宏明 Hiroaki Ishiura	0	0	0					
	51	ハリソン・ニューウェイ Harrison Newey	0	0	0					

※表中ポイント数字の **太字**：優勝 下線：予選ポールポジション

※ 最終戦鈴鹿大会に限り、レースの勝者には通常ポイントとは別に3ポイントが与えられる。

※ 最終戦終了時点で、複数のドライバーまたはチームが同一のポイントを得た場合、高得点を得た回数が多い順に順位を決定する。

※ルーキー・オブ・ザ・イヤー：当該年度初参戦となるルーキードライバーが3名以上存在する場合、その中で年間獲得ポイント最上位の選手に贈られる。

(ルーキー：SFの決勝レース出走回数が積算で4戦未満のドライバー)

チームポイントランキング

順位	No.	チーム	トータル ポイント	2019/4/20-21	2019/5/18-19	2019/6/22-23	2019/7/13-14	2019/8/17-18	2019/9/28-29	2019/10/26-27
				SUZUKA Rd.1	AUTOPOLIS Rd.2	SUGO Rd.3	FUJI Rd.4	MOTEGI Rd.5	OKAYAMA Rd.6	SUZUKA Rd.7
1	1 5	DDCOMO TEAM DANDELION RACING (ドコモ・チーム・ダンディライアン・レーシング)	20	8	12					
2	36 37	VANTELIN TEAM TOM'S (バンテリンチームトムス)	11	10	1					
3	3 4	KONDO RACING (コンドーレーシング)	11	9	2					
4	19 20	ITOCHU ENEX TEAM IMPUL (イトウチュウエネクスチームインパル)	10	0	10					
5	64 65	TCS NAKAJIMA RACING (ティージーエス・ナカジマレーシング)	8	0	8					
6	7 8	UOMO SUNOCO TEAM LEMANS (ウオモスノコチームルマン)	6	0	6					
7	15 16	TEAM MUGEN (チーム・ムゲン)	6	6	0					
8	38 39	JMS P.MJ/CERUMO・INGING (ジェームスピーエムユーセルモインギング)	4	4	0					
9	50 51	B-Max Racing with motopark (ビーマックスレーシングウィズモトパーク)	2	2	0					
	17	REAL RACING (リアルレーシング)	0	0	0					
	18	carrozzeria Team KCMG (カロツェリアチームケーシーエムジー)	0	0	0					

※表中ポイント数字の **太字**：優勝

※チームポイント：各チーム（エントラント）に所属するドライバーの獲得ポイントを合計。同一チーム（エントラント）に2台以上の車両が所属する場合は、上位2台分が得点対象となる。チームポイントには、ポールポジションのポイントは与えられない。

—開催概要—

- 大会名称 : 2019年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 第3戦 スポーツランド SUGO
- 開催日程 : 2019年6月22日(土) 公式予選
2019年6月23日(日) 決勝レース
- 開催サーキット : スポーツランド SUGO インターナショナルレーシングコース(1周: 3.704 km)
- 主催 : 株式会社菅生
菅生スポーツクラブ (SSC)
- 公認 : 国際自動車連盟 (FIA)
一般社団法人日本自動車連盟 (JAF)
- 認定 : 株式会社日本レースプロモーション(JRP)
- 後援 : 公益社団法人宮城県観光連盟
村田町
河北新報社
名取市
- 同日開催 : 全日本フォーミュラ3選手権 第9戦・第10戦
TCR ジャパンシリーズ 2019 第2戦 サタデーシリーズ / サンデーシリーズ
2019 N-ONE OWNER'S CUP Rd.6

【TV放映】

■ BSフジ『2019スーパーフォーミュラ選手権 第3戦 SUGO』

一昨年から無料/全国放送のBSフジでスタートした「決勝レース中継」を今年も放送いたします。今年も昨年までの生放送から決勝レース当日の17時～18時55分という、より視聴者の多い時間帯での録画放送に変更し、レース前の見所やルール解説、レース終了時の総括、そして表彰式まで、決勝レースの全体像をキチンと視聴者の皆様にご覧いただきます。

○放送時間 : 2019年6月23日(日)17:00～18:55

○実況 : 野崎 昌一

○解説 : 古賀 敬介

○ピットレポート : 千代 勝正

■ BSフジ『スーパーフォーミュラ GO ON!』

今年も内容を一新し、今シーズン国内外の若手ルーキードライバーをはじめ、注目のドライバーにフォーカスを当て、彼らにゆかりのある選手や監督をゲストに迎え、新たな情報番組としてお送りします。

本田朋子の進行、乃木坂46の樋口日奈のナレーションは今年も継続。レースのレビューやニュースも含め、よりグレードアップした新生「スーパーフォーミュラGO ON!」にご期待ください。

○放送時間

第4回 : 2019年7月5日(金) 23:00～23:55 (再放送 7月7日(日) 25:00～25:55)

ゲスト : 関口 雄飛 平川 亮 星野 一義

○進行 : 本田 朋子

○ナレーター : 樋口 日奈(乃木坂46)

■ J SPORTS『スーパーフォーミュラ 2019』

全7戦の予選と決勝の様様をライブ中継。再放送やレースダイジェスト番組も放送します。

尚、放送時間、放送チャンネルは予告なく変更される場合がありますので、「J SPORTSモータースポーツ」内の「スーパーフォーミュラ」ページか、「スーパーフォーミュラ オフィシャルウェブサイト」でご確認ください。

『【50 時間モタスポ祭り!】スーパーフォーミュラ 2019 第3戦 スポーツランドSUGO 』

予選 2019年6月22日(土) 13:10～ J SPORTS 3 <生中継>

決勝 2019年6月23日(日) 13:50～ J SPORTS 3 <生中継>

【映像配信】

■ Yahoo! GYAO!

大会終了10日後よりスーパーフォーミュラの決勝レースを全戦オンデマンドで無料配信。

※配信日時は変更となる場合があります。

<http://gyao.yahoo.co.jp/sports/>

■ YouTube

予選ならびに決勝の競技映像をダイジェスト版にて当日夜配信。

※配信日時は変更となる場合があります。詳しくは予選ならびに決勝日の夜、「スーパーフォーミュラ オフィシャルウェブ サイト」でご確認ください。

superformulavideo-YouTube

<https://www.youtube.com/user/superformulavideo>

【海外配信/放送】

■ motorsport.com (配信)

■ LetsGoRacing (Youtube Channel Livestream) (配信)

■ motorsport.tv (放送)

【インターネット/SNS】

■ オフィシャルWEBサイト

<http://superformula.net>

■ 公式LiveTimingアプリ

i OS,Android 対応無料ライブタイミングアプリ「SUPERFORMULA」で検索

■ スーパーフォーミュラオフィシャル Twitter

https://twitter.com/SUPER_FORMULA

※公式ハッシュタグ『#sformula』

■ スーパーフォーミュラオフィシャルFacebook

<https://www.facebook.com/superformula.official>

※公式ハッシュタグ『#sformula』

■ オフィシャル Instagram

https://www.instagram.com/superformula_official

※公式ハッシュタグ『#superformula』

【チケット情報】

●前売観戦券(6月22・23日通し)

大人:5,400円(シングル)

大人:9,800円(ペア)

大人:14,700円(トリプル:3名) 大人:19,600円(グループ:4名) 大人:4,400円(レディース:女性・1名)

●当日チケット

	6/22(土)	6/23(日)
当日観戦券	3,300円	6,400円
ピットウォーク	2,500円	2,500円
パドックパス(大人)	4,500円	6,500円
パドックパス(子供)	2,300円	3,300円

- ・6/21(金)は入場料が1,700円となります。
- ・入場ゲートの当日券売場で学生証(高校・専門学校・短大・大学)を提示すると50%割引になります。
- ・ピットウォークおよびパドックパス販売所は会場内パドック入口付近を予定しております。
- ・パドックパスを購入のお客様はピットウォークへご参加いただけます。
- ・ピットウォークは保護者同伴で中学生以下無料。パドックパスは4歳児から小学生までが子供対象となります。
- ・中学生以下入場無料
- ・プレミアムスイート・レギュラー(2日通し券) ペア(大人2名):52,200円、シングル(大人1名):27,700円、子供(子供1名):15,700円の販売は終了しました。
- ・パドッククラブパス(2日通し券) 大人(1名):23,400円、子供(1名):10,300円の販売は終了しました。

詳しくは、レースチケットのご案内 (https://www.sportsland-sugo.co.jp/watch/20190623_sf/1337)をご参照ください。

*この件に関するお問い合わせは、下記までお願いいたします。
 株式会社日本レースプロモーション(<http://www.superformula.net/>)
 102-0074 東京都千代田区九段南2-3-25 平安堂ビル
 e-mail:media@superformula.net
 Tel:03-3237-0131 Fax:03-3237-0135

【2019年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 参考資料】

1. 全日本スーパーフォーミュラ選手権とは？

純然たるレーシングマシンであるオープン・シングルシーターのフォーミュラカーによって競われる国内最高峰の自動車レースです。一般社団法人日本自動車連盟(JAF)が公認し、株式会社日本レースプロモーションのプロモートにより、1996年にフォーミュラ・ニッポンとしてスタート。2013年より名称をスーパーフォーミュラに変更し現在に至っています。

2. チャンピオンシップ

2019年全日本スーパーフォーミュラ選手権は、全7戦、日本全国6カ所のサーキットを11チーム(エントリー)、国内外の20名(20台)のドライバー(※1)が転戦しチャンピオンが争われる、アジア地域唯一の国際格式選手権シリーズです。

(※1)ドライバー:国内:13名、海外:6カ国(イギリス、オーストラリア、スペイン、ニュージーランド、フランス、ロシア)7名

2019年全日本スーパーフォーミュラ選手権シリーズ開催スケジュール

日程	ラウンド/サーキット	予選方式	決勝レース方式
4 / 20 ~ 21	第1戦/鈴鹿サーキット	ノックアウト	250 km
5 / 18 ~ 19	第2戦/オートポリス	ノックアウト	250 km
6 / 22 ~ 23	第3戦/スポーツランドSUGO	ノックアウト	250 km
7 / 13 ~ 14	第4戦/富士スピードウェイ	ノックアウト	250 km
8 / 17 ~ 18	第5戦/ツインリンクもてぎ	ノックアウト	250 km
9 / 28 ~ 29	第6戦/岡山国際サーキット	ノックアウト	250 km
10 / 26 ~ 27	第7戦/鈴鹿サーキット	ノックアウト	250 km

2019年シリーズ選手権 ポイントシステム

順位	優勝	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位以下	PP
1大会1レース	10	8	6	5	4	3	2	1	0	1

※ 最終戦鈴鹿大会に限り、レースの勝者には通常ポイントとは別に3ポイントが与えられる。

※ 最終戦終了時点で、複数のドライバーまたはチームが同一のポイントを得た場合、高得点を得た回数が多い順に順位を決定する。

●ルーキー・オブ・ザ・イヤー：当該年度初参戦となるルーキードライバーが3名以上存在する場合、その中で年間獲得ポイント最上位の選手に贈られる。
(ルーキー:SFの決勝レース出走回数が積算で4戦未満のドライバー)

●チームポイント：各チーム(エントリー)に所属するドライバーの獲得ポイントを合計。
同一チーム(エントリー)に2台以上の車両が所属する場合は、上位2台分が得点対象となる。
チームポイントには、ポールポジションのポイントは与えられない。

3. シリーズ賞典

各レースでの入賞成績に応じて与えられるポイントの合算により、シリーズチャンピオンが決定。ドライバーとチームの2部門に全日本スーパーフォーミュラ選手権のタイトルが懸けられチャンピオン獲得者には下記の賞典が授与される。

- 年間チャンピオンチーム
 - ・経済産業大臣杯
- 年間チャンピオンドライバー
 - ・ドライバーズチャンピオンカップ
 - ・観光庁長官杯(予定)
 - ・自由民主党モータースポーツ振興議員連盟杯
- ルーキー・オブ・ザ・イヤー
 - ・トロフィー

4. レース車両

◎シャシー

車両は、2018年までのSF14で実績のあるイタリアのダラーラアウトモビリティ社の設計・製作によるもので、SF14のコンセプト「Quick&Light」を継続しつつ、2016 FIAの安全基準に対応し、空力の見直しにより、さらにオーバーテイクし易くなることで、ドライバー同士のバトルが際立つ、エンターテインメントと競技の両立を目指して開発されました。

◎エンジン

日本を代表する自動車メーカーであるホンダとトヨタが次世代エンジン開発に貢献するコンセプト=NRE(※2)に基づき開発した本田技研工業/M-TEC製/HR-417E、トヨタ自動車/TRD製/Biz-01Fを搭載しています。

このエンジンの特徴としては、「燃料リストラクター」(燃料流量規制システム)を全機装備し、燃料流量を一定にすることにより燃料をいかに効率良く活用しパワーに結びつけるかが、勝負の鍵となります。

厳しい開発競争の結果、効率の良さを図る“正味燃費消費率(BSFC)”、“正味熱効率”では市販ハイブリット車以上の性能を発揮しており、次世代エコエンジンの開発に貢献しています。

(※2)NRE エンジンについて

ホンダ、トヨタ、ニッサンが、環境技術とモータースポーツの面白さの両立に向けて決定したエンジン規定。

- ・気筒配列 : 直列4気筒
- ・排気量 : 2,000cc+ターボ
- ・燃料吸気方式 : ダイレクトインジェクション
- ・燃料流量制限 : 鈴鹿、富士大会… 燃料流量95kg/h
その他大会……燃料流量90kg/h

◎オーバーテイクシステム

オーバーテイクシステム(以下OTS)は、レースに於ける見せ場の一つである追い越しをより促すシステムで、2009年より採用しています。

このシステムは、各エンジンに装備されている燃料リストラクターを活用し、燃料供給量を一時的に増加させパワーを上げる、というもので(※3)、ステアリングのボタン操作により、決勝レース中、最大100秒間使用可能です。また、使用回数は任意です。ただし、OTS作動後は100秒間の使用制限が設けられている為、昨年までの1回20秒間を5回使用できる仕様と比べ、使用するタイミングがより重要となり、戦略性が高くなっています。なお、OTS作動中は、ドライバーのヘルメット後方にあるオーバーテイクランプ(OTL)が点滅し、観客からも視認できるとともに、リアコーションランプも連動して点滅するので、後方のドライバーも視認が可能です。

また、OTS使用可能残時間は、OTL自体の色でわかりやすく表示いたします。

●OTLの識別

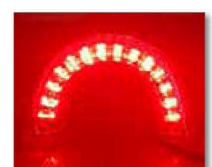
- ・残り100秒から20秒までは、グリーンの常灯
- ・20秒未満は、赤の常灯
- ・0秒で、消灯
- ・OTS作動時は、点滅
- ・100秒間の使用制限中は、スロー点滅
- ・OTS作動時は、リアコーションランプが連動



SF14用(左) SF19用(右)



残り100秒→20秒



残り20秒→0秒

(※3) オーバーテイクシステムについて

- ・メカニズム : システム作動時に燃料流量を10kg/h増加させる
- ・効果 : 約60ps、10%の出力増
- ・ルール : 決勝レース中、最大100秒間使用可能

◎タイヤ

2016年シーズンより横浜ゴム製のワンメイク供給です。横浜ゴムのスーパーフォーミュラ用ADVANレーシングタイヤは、スーパーフォーミュラが要求するグリップ、耐久性、安全性などの厳しい目標に対し、高いパフォーマンスを発揮、レースの盛り上げに貢献しています。

SF19用に新たに開発された2019シーズンタイヤは、フロントタイヤをこれまでより20mm広げ構造自体も変更し、さらに性能が向上いたしました。

2018シーズンより、全戦で「ソフトタイヤ」「ミディアムタイヤ」の2スペックタイヤ制が導入され、チーム戦略に多様性をもたらし、エキサイティングなレース展開を演出しています。